

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向け取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	理念にも「その人が地域の中で～」とあるため、回覧板は利用者主体で届けたりと、細かい点においても関わりを増やすとよい	「回覧板を利用者と一緒に届ける」といった、地域と関わる具体的な取組みを定着させる	「回覧板を利用者と一緒に届ける」といった、地域と関わる具体的な取組みを会議で洗い出す → 取組みの項目が決まったら実施する → 何が何回できたかについて記録をとる → 毎月の会議で発表し振り返る	12ヶ月
2	6	利用者の症状に因り施錠するユニット入口と、車いすからの移乗が食事前にはないことは常態化せず、「僅かの時間も開錠する」「座位が保てるなら移る」方向で定期的に話し合う機会をつくとよい	施錠するユニット入口と、車いすからの移乗を食事前におこなわないことの2点を常態化させない	毎月の会議で「なぜできないのか」「どうしたらできるのか」議題にあげる	12ヶ月
3	10	家族との信頼関係が薄い(可能性がある)	家族とのコミュニケーションを豊かにする → 信頼関係をつくる	①面会にはお茶をだしてゆっくりしてもらおう ②桜の川新聞を家族にも届ける ③面会に赴いたら、管理者と会話をもってもらえるようにと、掲示やたよりで積極的に案内する	12ヶ月
4	23	(各ユニット格差はあるものの)利用者一人ひとりへの声掛けが少ないため、一度振り返るとよい	利用者へ声掛けを増やす	出勤してきたら、全員に名前を入れて挨拶をすることを職員ルールとする	12ヶ月
5	33	看取りの未経験者のためにも定例会内の研修時間で実施があるとよい	実際の看取りで慌てないよう、看取りを経験したことのない職員が嫌悪感や畏怖を抱かないよう諸所準備しておく	看取りを経験したことのある職員に、定例会内の研修会で体験談を語ってもらう	2ヶ月
6	35	消防署職員の立ち合いの下、3階から下への移動について具体的指導を求めるとよい	シーツ、車いすなど、搬送についていくつか方法があるので、それらを職員が会得する	年2回の法定訓練に消防署職員が参加くださるよう、早めに段取りする → 具体的な指導を求める	9ヶ月
7	52	張り紙や留めているテープが浮いているものは貼り直し、またクラフト類は利用者も参加することで季節をより感じるができることとよい	主に壁の5Sに努め、利用者を主体としたクラフトレクを実施する	壁をきれいに掃除する → 季節のクラフトを法人内の事業所に教えてもらう(優秀事業所:袋井やすらぎの家) → クラフトレクのなかで利用者がやりたい、または有用感をもてるものをセレクトし、実施する	6ヶ月